

平成30年3月7日

社団法人日本クラシック音楽事業協会御中

音楽による福島まち造り実行委員会

代表 三浦尚之

推薦者] 一般社団法人日本クラシック音楽事業協会 理事・大内栄和、参与・善積俊夫

復興支援音楽祭実施報告

日程：2018年2月2日（金）18時～、3日（土）10時～18時30分

会場：福島市音楽堂大ホール & 古閑裕而記念館サロン

出演：基調講演：宮田まゆみ（笙雅楽奏者）、演奏：伶楽舎（22名）

ワークショップ講師（笹本武志＜龍笛＞、宮丸直子＜打楽器＞、三浦礼美＜笙＞、
中村仁美＜箏・簞簟＞）

スタッフ：三浦隆晴（舞台監督）、花岡美智（音響）

内容：

* ワークショップ「雅の会・ふくしま」（一般市民対象、26名）

* 子どものための雅楽教室「福島市立福島第三小学校（360名）&保護者

* 基調講演（宮田まゆみ）「雅楽から広がる楽しい世界」

* コンサート第一部：管弦「双調音取」「酒胡子」「胡飲酒破」、舞楽「賀殿急」

コンサート第二部：芝祐靖復曲・構成『露台乱舞』

「白薄様」「平調音取、越天楽」「早髪多々良」「嘉辰」

「萬歳楽と池の涼しき」「伊佐立奈牟」

* ふれあい交流会

来場者：約589名

目的：

「古の響き・雅楽」：日本の伝統に根差した音楽文化を直接体験することで、福島県民が自分のルーツを再発見し郷土とのつながりを認識する機会とすることを目標としました。また、創作曲の鑑賞やワークショップでの体験を通して新たな可能性・未来へと目を向ける機会とすることを目的に下記のワークショップ・講演・コンサートを行い、コンサート終了後には演奏家と参加者との「ふれあい交流会」を行いました。

成果：

基調講演者の宮田まゆみ氏は、「雅楽から広がる楽しい世界」の演題のもと、世界で最も古くから伝承されている公演芸術と言われ、奈良時代頃に今の中国や韓国などから伝えられた音楽や舞が元になって日本の「雅楽」ができた状況を詳しく説明し、聴衆に新たな日本文化の貴さを感じさせました。また、観客からは、「それぞれの故郷には、それぞれの伝統文化があり、それを活かし継続することへの意義、そして福島県民としての誇りを喚起させる糸口になった」との感想を戴きました。

NHK総合テレビ、福島テレビ、テレビユー福島でニュースとして放送され、また福島民報新聞、福島民友新聞に評価記事が掲載されました。

経費報告：

旅費交通費：116,620円

＜内訳＞宮田まゆみ（講演者）、中村かほる（舞人）、田口和美（衣紋方）、井清俊博（舞台監督）、三浦隆晴（音響）、花岡美智（照明）、三浦尚之（芸術監督）

東京～福島（東北新幹線）16,660円（回数券）x7名
＝116,620円

宿泊費：ホテルメッツ福島 6名＝43,200円

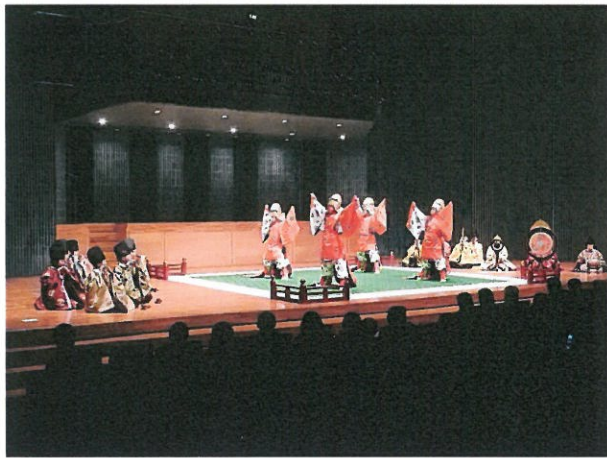
宮田まゆみ（講演者）、中村かほる（舞人）、田口和美（衣紋方）、井清俊博（舞台監督）、三浦隆晴（音響）、花岡美智（照明）

1泊7,200円x6名＝43,200円

東北アクセス株式会社（チャーターマイクロバス）南相馬市～福島市音楽堂往復
64,800円

合計 224,620円

以上



古の響き 雅楽 伶楽舎

舞人

笙

2018
2/3 土

開場13:30

開演14:00

会場 福島市音楽堂大ホール

チケット

全席自由

4,000円(税込) 5,000円(税込)

ふれあい交流会費込

チケット取り扱い

福島市音楽堂 Tel 024-531-6221

福島テルサ Tel 024-521-1500

プログラム

14:00～ 基調講演 宮田まゆみ「雅楽から広がる楽しい世界」

15:30～ コンサート 伶楽舎

第一部

かんげん そうぢょうのねとり

管絃 双調音取

酒胡子

こんじゅのは

胡飲酒破

ぶがく かねのきゆう

舞楽 賀殿急

第二部

しば すけやす ふつきよく こうせい

芝 祐靖 復曲・構成

雑芸 白薄様

かんげん ひょうぢょうのねとり

管絃 平調音取、越天楽

どうげい はやびんたたら

雑芸 早髪多々良

ろだいらんぶ

露台乱舞

朗詠 嘉辰

らんぶ まんざいらく

乱舞 萬歳楽と池の涼しき

どうげい いざたちなむ

雑芸 伊佐立奈牟

17:00～ ふれあい交流会 会場 福島市古関裕而記念館 サロン

同日開催

子どものための
雅楽教室

(福島市立第三小学校)
全校生徒ご招待

時間 10:00～11:30

場所 福島市音楽堂
大ホール

演奏 伶楽舎

※都合により曲目が変更になる場合があります。

主催 音楽による福島まち造り実行委員会、ミュージック・フロム・ジャパン

共催 福島市教育委員会、公益財団法人福島市振興公社

助成
協力

日本クラシック音楽事業協会(心の復興音楽基金)

福島テレビ、ふくしま未来研究会、福島民友新聞社、福島テレビエンタープライズ、
一般財団法人桜ヶ丘病院、福島商工会議所、国際ソロプチミスト福島、福島県立医科大学

この事業は平成29年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)の補助により実施しています。

古の響き 雅楽

伶楽舎

音楽による福島まち造り実行委員会は、
福島市民、県民が世界で最も長く続く公演芸術、
雅楽の優れた演奏に直接触れることにより、
日本の文化の質の高さ、歴史の深さを味わい、ひいては、
自らが住む地域への愛着と誇りを醸し出すことを願い、
「古の響き 雅楽」を開催いたします。

～出演者プロフィール～



基調講演

笙演奏家／伶楽舎メンバー

宮田 まゆみ

Mayumi Miyata

国立音楽大学ピアノ科卒業後、雅楽を学ぶ。古典雅楽はもとより、ジョン・ケージ、武満徹、ヘルムート・ラッヘンマン、細川俊夫など現代作品の初演も多く、小澤征爾指揮サイトウ・キネン・オーケストラ、C. デュトワ指揮NHK交響楽団、A. プレヴィン指揮ニューヨーク・フィル、大野和士指揮BBC交響楽団ほか国内外のトップオーケストラと数多く共演。加えてラッヘンマン作曲のオペラ『マッチ売りの少女』への出演、パリの秋芸術祭、ウィーン・モデルン、ルツェルン、タングルウッドなど各国の音楽祭への出演、東京、ニューヨーク、ミラノ、アムステルダム、ウィーン、ローマ、ロンドンなどでのリサイタルと幅広く活躍している。平成28年に行った『甦る古譜と現代に生きる笙 シリーズⅢ』によって平成29年芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。今までに芸術選奨文部大臣新人賞、中島健蔵賞、佐治敬三賞、松尾芸能賞優秀賞など受賞。国立音楽大学客員教授。



コンサート

雅楽アンサンブル

伶楽舎

Reigakusha

雅楽の合奏研究を目的に1985年に発足した雅楽演奏グループ。音楽監督・芝祐靖。現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に取り組み、幅広い活動を展開している。国内各地の他、アメリカやヨーロッパの主要ホールに招聘されて演奏。福島市音楽堂でも2004年、2010年、2013年に雅楽コンサートを行った。古典曲や現代曲、復元曲のCD等を多数録音。現代作品や古典雅楽様式の新作として、これまで湯浅譲二、池辺晋一郎、増本伎共子、猿谷紀郎、伊左治直、芝祐靖他に作品を委嘱、自主公演で初演。2002年2月、中島健蔵音楽賞特別賞を受賞。CD『秋庭歌一具』で平成14年度芸術祭レコード部門優秀賞受賞。2016年の「伶楽舎第13回雅楽演奏会」が第16回佐治敬三賞を受賞。他に、解説を交えた親しみやすいコンサートを企画し、雅楽への理解と普及にも努め、小中高校生を対象としたワークショップ、レクチャーコンサートなども数多く開催している。



ミュージック・フロム・ジャパン

ミュージック・フロム・ジャパン (MFJ) は、1975年三浦尚之が設立。以来ニューヨーク州芸術評議会をはじめ、国際交流基金、文化庁、日米の財団、在米日系企業など多方面からの支援を得て、音楽を通しての文化交流に努めている。音楽之友社賞、外務大臣表彰、新日鉄音楽賞、中島健蔵音楽賞、国際交流基金奨励賞に加え文化庁長官表彰が授与された。ニューヨークにおいて1994年に開かれた日本音楽資料センターでは、日本の音楽や文化に関する世界中からの様々な問い合わせに対応している。



三浦 尚之

ミュージック・フロム・ジャパン
芸術監督

音楽による福島まち造り実行委員会

- | | |
|-----|---------------------------|
| 委員長 | 三浦 尚之 (福島市音楽文化総合アドバイザー) |
| 委員 | 本間 稔 (福島市教育委員会 教育長) |
| | 菊地 威史 (公益財団法人福島市振興公社 理事長) |
| | 三宅 祐子 (福島市文化団体連絡協議会 会長) |
| | 中野 新一 (福島県伊達医師会 会長) |
| | 吉原 泰助 (元国立大学法人福島大学長) |
| 監査 | 波部 康 (一般財団法人桜ヶ丘病院 理事長) |



福島市音楽堂

TEL 024-531-6221 FAX 024-531-6257 〒960-8117 福島市入江町1-1
<http://www.f-shinkoukousha.or.jp/ongakudou>

古の響き 雅楽

伶楽舎

プログラム

舞人

笙



2018
2/3 土

会場 福島市音楽堂大ホール

開場13:30 | 開演14:00

ふれあい交流会 | 17:00~

主催 音楽による福島まち造り実行委員会、ミュージック・フロム・ジャパン
共催 福島市教育委員会、公益財団法人福島市振興公社

助成 日本クラシック音楽事業協会(心の復興音楽基金)
協力 福島テレビ、ふくしま未来研究会、福島民友新聞社、福島テレビエンタープライズ、
一般財団法人桜ヶ丘病院、福島商工会議所、国際ソロプチミスト福島、福島県立医科大学

この事業は平成29年度福島県地域創生総合支援事業(サポート事業)の補助により実施しています。

音楽による福島まち造り実行委員会は、
福島市民、県民が世界で最も長く続く公演芸術、
雅楽の優れた演奏に直接触れることにより、
日本の文化の質の高さ、歴史の深さを味わい、ひいては、
自らが住む地域への愛着と誇りを醸し出すことを願い、
「古の響き・雅楽」を開催いたします。

基調 講演

14:00～

「雅楽から広がる 楽しい世界」

笙演奏家／伶楽舎メンバー

宮田 まゆみ Mayumi Miyata



国立音楽大学ピアノ科卒業後、雅楽を学ぶ。古典雅楽はもとより、ジョン・ケージ、武満徹、ヘルムート・ラッヘンマン、細川俊夫など現代作品の初演も多く、小澤征爾指揮サイトウ・キネン・オーケストラ、C. デュトワ指揮NHK交響楽団、A. プレヴィン指揮ニューヨーク・フィル、大野和士指揮BBC交響楽団ほか国内外のトップオーケストラと数多く共演。加えてラッヘンマン作曲のオペラ『マッチ売りの少女』への出演、パリの秋芸術祭、ウィーン・モデルン、ルツェルン、タングルウッドなど各国の音楽祭への出演、東京、ニューヨーク、ミラノ、アムステルダム、ウィーン、ローマ、ロンドンなどでのリサイタルと幅広く活躍している。平成28年に行った『甦る古譜と現代に生きる笙 シリーズⅢ』によって平成29年芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。今までに芸術選奨文部大臣新人賞、中島健蔵賞、佐治敬三賞、松尾芸能賞優秀賞など受賞。国立音楽大学客員教授。

コンサート

15:30～

お話：宮丸直子

管絃 双調音取 かんげん そうぢょうのねとり

演奏に先立って奏される短い楽曲で、楽器の音を整え、会場をその調子の雰囲気の中で満たす役割を持っています。笙と箏、笛と羯鼓、琵琶と箏の順に演奏されます。双調はソ(双調)の音を主音とする音階で、春の調子とされます。

管絃 酒胡子 かんげん しゅうこうし

原曲は壱越調で、品玉(しなだま・手品の一種)に用いた、或いは酒盛りの音声とした、などの謂れがあります。唐の時代、酒宴の席で用いられていた「酒胡子」という起き上がり小法師のような木の人形の玩具があり、卓上でくるくると回し、人形が倒れた側の人が酒を飲む、或いは

は何か芸をする、といったものだったようです。小曲ながら短い曲の中に同じ旋律が何度も繰り返され、その柔らかな流れが好まれ、管絃曲としてよく親しまれています。

管絃 胡飲酒破 かんげん こうんじゅのは

元は壱越調の舞楽曲で、胡国の人が酒に酔ってこの曲を奏し、その姿を模して舞にしたとされ、舞は酒に酔った様子を表現する特徴的な一人舞で、楽曲も、繰り返し聴かれる旋律の中に大らかな楽しさのある曲です。承和年間(834～848)、勅命によって、楽は大戸清上(おおとのきよがみ)、舞は大戸真繩(おおとのまただ)が作った(改作した)とも言われています。曲には「序」と「破」の楽章があり、「破」は管絃曲としてもよく演奏されています。

舞楽 賀殿急 ぶがく かにんのきゅう

この曲は隋の煬帝の作曲とも言われており、承和年間、遣唐使として唐へ渡った琵琶の名手、藤原貞敏がこの曲を習い、日本へ伝えたとされており、舞を林真倉が勅により作ったと伝えられています。元は「河傳」という曲だったのが音韻が同じ「賀殿」の字に改められ、新殿を賀する楽として用いるようになったと言われ、今日でも新築のお祝いや新しいホールへのこけら落としなどでもよく演じられます。

壱越調、破と急の楽章が伝わっていますが、本日は軽やかな舞振りの「急」を上演致します。舞人4人による平舞で、左方襲装束に鳥甲をかぶって舞います。壱越調調子で舞人は舞台へ登場、急の楽章を舞って、急の「重吹」(しげぶき)で降台します。

管絃「双調音取」「酒胡子」「胡飲酒破」

笙：宮田まゆみ、石川 高、田島和枝
箏：中村仁美、鈴木絵理、須崎時彦
龍笛：笹本武志、角田真美、田口和美
琵琶：中村かほる、田淵勝彦
箏：野田美香、平井裕子
羯鼓：宮丸直子
太鼓：三浦礼美
鉦鼓：中村華子

舞楽「賀殿急」

舞人：谷内信一、伊崎善之、野護元、鳥谷部輝彦
笙：石川高、宮田まゆみ、田島和枝、中村華子
箏：中村仁美、田淵勝彦、鈴木絵理、須崎時彦
龍笛：笹本武志、角田真美、平井裕子、田口和美
羯鼓：宮丸直子
太鼓：三浦礼美
鉦鼓：野田美香

露台乱舞 ろだいらんぶ

芝 祐靖 復曲・構成

平安時代後期から室町時代にかけて、11月中の丑、寅、卯、辰の四日間にわたり、宮中では酒と音楽を中心とした儀式が行われていました。丑の日には「帳台の試(ちょうだいのこころみ)」(帳台での舞姫の舞)、寅の日には「殿上の淵酔(でんじょうのえんずい)、御前の試(清涼殿での酒宴と歌舞)、卯の日には新嘗祭と童女御覧、最後の辰の日には「豊明節会(とよあかりのせちえ)」(新穀を食す宴会。御饌御酒の賜宴、露台乱舞)、という酒宴と歌舞続きの四日間で、これらの宮中儀式については平信範『兵範記』に詳細な記録があります。今日の雅楽からは想像できないほど、当時の殿上人達にとって雅楽は身近な音楽で、生活や儀式に溶け込んだものであり、極自然に楽しむものであったようです。当時の音楽行事の精神を汲み、遊びの心と情感のある雅楽を意識して組曲「露台乱舞」を構成し、雅な酒宴の様子を再現を試みました。

■ 雑芸 白薄様 どうげい しろうすよう

雑芸とは特定の分類に入らない歌謡の総称で、この歌は宴会の参入音声(まいりおんじょう 登場の歌謡)に歌われたほか、乱舞にも歌われたといえます。

歌詞 白薄様 濃染紙の紙 巻上の筆
鞆絵書いたる筆の軸 ヤレ コントントウ

■ 管絃 平調音取 かんげん ひょうちょうのねとり

楽器の調子合わせ(チューニング)のための音楽で、演奏会場を「平調」(平調[ミ])を主音とする音階)の雰囲気にする役目もあります。

■ 管絃 越天楽 かんげん えてんらく

越天楽は雅楽の代表的存在で、簡潔で色彩感(移調)があり親しみやすい優美な旋律をもっています。

■ 阿音三返 あおんさんぺん

元は神憑りや感嘆などを象徴する、神楽歌や東遊で用いられる「お」、笑いを象徴している久米歌の「あ」の字の詠唱に倣って作られたものですが、ここでは連日連夜の宴に疲れて発したノビやアクビのように聞こえます。

■ 雑芸 早髪多々良 どうげい はやびんたたら

白拍子が歌うときは「素拍子」(フリーリズム)で歌い、乱舞の節には「楽拍子=早髪多々良」に公卿殿上人がうたい、白拍子が舞ったといえます。楽譜は見あたらないため、殿上人が手拍子を打ちながら歌い囃した様子を想像の内において「楽拍子・早髪多々良」として復曲しました。

歌詞 髪多々良を 揺がせばこそ 揺がせばこそ
愛嬌づいたれ ヤレ コントントウ

■ 朗詠 嘉辰 ろうえい かしん

朗詠は文学的な漢詩文を詠唱するもので、貴族達の中で高尚な品格ある歌物として好まれていました。また、朗詠はフリーリズムで歌われ、伴奏は笙、篳篥、龍笛各一管だけで、絃楽器は用いられません。「嘉辰」は祝言的な内容の朗詠で、晴の席では特に良く歌われていた曲です。

歌詞 嘉辰今月 歎無極 万歳千秋 楽未央
(かしんれいげつ かんむきよく ばんぜいせんしゅう らくびおう)

■ 乱舞と今様 萬歳楽 池の涼しき

らんぶといまよう まんざいらく いけのすずしき

臨時の大礼などの後に、清涼殿の殿上で、藏人頭以下の殿上人が酒宴を賜り、今様が歌われ「萬歳楽」を乱舞しました。この「淵酔」の歓楽を象徴して、唐楽の名曲「萬歳楽」(管絃舞楽)の中に、酔客の今様をからませました。場面は、露台で乱舞・萬歳楽が歌われる中、回廊で酔客が突然「今様」を歌い出します。萬歳楽とは異なった旋律ですが、両者が不思議にマッチしているのは、数寄屋人ならではの技でしょうか。

歌詞 池の涼しき汀には 夏のかげこそなかりけり
小高き松を吹く風の 声も秋とぞ聞こえぬ

■ 雑芸 伊佐立奈牟 どうげい いざたちなむ

宴も果て、連夜の酒宴に疲れ、酔眼もうろうとした殿上人達が歌いながら各々の寝所に向かいます。菊亭本乱拍子の巻尾に「伊佐立奈牟は退出音声(まかでおんじょう)に囃す」とあります。

歌詞 いざ立ちなむ おしの鴨どり
水増さらば 徳ぞまさらむ

※芝祐靖プログラムノートより抜粋転載、「嘉辰」は加筆

芝 祐靖 復曲・構成「露台乱舞」

笙 (歌):宮田まゆみ、石川 高、田島和枝
篳篥 (歌):田淵勝彦、中村仁美、鈴木絵理、須崎時彦
龍笛 (歌):笹本武志、谷内信一(※1)、角田真美、田口和美、伊崎善之(※1)
琵琶 (歌):中村かほる(※2)、野護元
箏 (歌):野田美香、平井裕子
羯鼓・三ノ鼓 (歌):宮丸直子
太鼓 (歌):三浦礼美
鉦鼓 (歌):中村華子 ※1:舞(萬歳楽) ※2:舞(早髪多々良)

雅楽家/伶楽舎音楽監督

芝 祐靖 Sukeyasu Shiba



1935年東京生まれ。奈良系の伶人の家に生れたため、宮内庁楽部楽生科に入学。横笛、左舞、琵琶、古代歌謡などを修め1955年卒業。同庁楽師(総理府技官)として主に横笛で活動。古典雅楽の演奏のほか、現代雅楽、現代邦楽の作曲・演奏を行い、雅楽廃絶曲の復興も手懸ける。1984年、宮内庁を退官し、85年伶楽舎を結成、横笛演奏を中心とした活動を始める。また、国立劇場の正倉院収蔵楽器復元に参加し、敦煌琵琶譜などを再興。1986年よりソロ、伶楽舎ほかのアンサンブルで海外公演を行っており、古典雅楽と現代雅楽の紹介活動につとめている。新作の雅楽作品、正倉院復元作品多数作曲。

伶楽舎音楽監督、国立音楽大学招聘教授、日本芸術院会員、文化功労者、杉並区名誉区民。芸術選奨文部大臣賞、松尾芸能賞、モービル音楽賞、紫綬褒章、伝統文化ボーラ賞、旭日中綬章受章、文化勲章、他受賞。

雅楽アンサンブル

伶楽舎 Reigakusha



雅楽の合奏研究を目的に1985年に発足した雅楽演奏グループ。音楽監督・芝祐靖。現行の雅楽古典曲以外に、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏にも積極的に取り組み、幅広い活動を展開している。国内各地の他、アメリカやヨーロッパの主要ホールに招聘されて演奏。福島市音楽堂でも2004年、2010年、2013年に雅楽コンサートを行った。古典曲や現代曲、復元曲のCD等を多数録音。現代作品や古典雅楽様式の新作として、これまで湯浅譲二、池辺晋一郎、増本伎共子、猿谷紀郎、伊左治直、芝祐靖他に作品を委嘱、自主公演で初演。2002年2月、中島健蔵音楽賞特別賞を受賞。CD『秋庭歌一具』で平成14年度芸術祭レコード部門優秀賞受賞。2016年の「伶楽舎第13回雅楽演奏会」が第16回佐田敬三賞を受賞。他に、解説を交えた親しみやすいコンサートを企画し、雅楽への理解と普及にも努め、小中高校生を対象としたワークショップ、レクチャーコンサートなども数多く開催している。

音楽による福島まち造り2018 「古の響き・雅楽」 伶楽舎

音楽による福島まち造り実行委員会

委員長	三浦尚之 (福島市音楽文化総合アドバイザー)
委員	本間 稔 (福島市教育委員会教育長)
	菊地威史 (公益財団法人福島市振興公社理事長)
	三宅祐子 (福島市文化団体連絡協議会会長)
	中野新一 (福島県伊達医師会会長)
	吉原泰助 (元国立大学法人福島大学長)
監査	渡部 康 (一般財団法人桜ヶ丘病院理事長)

ミュージック・フロム・ジャパン

理事	三浦尚之 (代表)
	小野真理
	Yuriko
名誉会長	小和田恒 裁判官 (国際司法裁判所判事)
名誉副会長	杉山晋輔 大使 (在アメリカ合衆国特命全権大使) 案
	日枝 久 (フジサンケイグループ代表)
	内堀雅雄 知事 (福島県知事)
	大橋洋治 (ANAホールディングス相談役)
名誉顧問	高橋礼一郎 大使 (在ニューヨーク総領事)
	池辺晋一郎 (作曲家)
	Donald Keene (コロンビア大学名誉教授)
	信元久隆 (曙ブレーキ工業代表取締役社長)
	佐々木正峰 (元文化庁長官)
	銭谷眞美 (東京国立博物館館長)
顧問	功刀秀記 (全日本空輸執行役員・米州総支配人 ニューヨーク支店長)
	若松 誠 (フジサンケイ・コミュニケーションズ・ インターナショナル代表取締役社長)
	坂本譲二 (株式会社IHI 顧問)
	渡辺敏治 (元東芝取締役専務)
コンサルタント	船山 隆 (音楽学者、東京芸術大学名誉教授)
	石田一志 (音楽評論家)

ミュージック・フロム・ジャパン支援委員会

委員長	中村啓治 (福島テレビ取締役相談役(前会長))
委員	高橋雅行 (福島民報社代表取締役社長)
	五阿弥宏安 (福島民友新聞社代表取締役社長)
	森 洋一 (福島テレビ代表取締役社長)
	横山 宏 (福島放送代表取締役社長)
	信国一朗 (テレビユー福島代表取締役社長)
	森川英治 (福島銀行代表取締役社長)
	樋口郁雄 (福島信用金庫理事長)
	佐藤健介 (福島トヨタ自動車代表取締役社長)
	福井邦顕 (日本全業工業代表取締役会長)
	湯浅大郎 (公益財団法人湯浅報恩会理事長)
特別顧問	小和田恒 (国際司法裁判所判事)
顧問	ドナルド・キーン
	糠澤修一 (福島テレビ代表取締役会長)
	竹之下誠一 (福島県立医科大学理事長兼学長)
	木幡 浩 (福島市長)

ミュージック・フロム・ジャパン音楽祭スポンサー

プリンシパルリーダー	フジテレビジョン、全日本空輸、三浦尚之
リーダー	IHI、サンフォニックス
ベネファクター	福島銀行、日本全業工業、福島民報社、 福島民友新聞社、福島信用金庫、 テレビユー福島
プリンシパルパトロン	湯浅光子
パトロン	福島映像企画、福島ヤクルト販売、 東邦銀行、湯浅報恩会、湯浅大郎、糠澤修一
スポンサー	福島テレビエンタープライズ、内藤頼誼、 野坂操壽、渡邊 勝、渡辺敏治、御手洗康、 増本喜久子
チャンピオン	荒木久光、池辺晋一郎、齋藤博之、霧生トシ子、 佐々木正峰、水谷つや、木口文弘、志村裕基、 相良邦夫、佐々木秀、大七酒造株式会社、 福島貸切辰巳屋自動車、 福島県厚生農業協同組合連合会、小島美子、 糀場富子、森川英治
友達	青山恵子、石岡栄子、岡崎 正、香山雪彦、 功刀俊洋、黒沢 勇、齋藤喜代治、鈴木純明、 高塩 至、竹之下誠一、玉井寛、新妻威男、 永倉禮司、芳賀紘子、菱沼尚子、三宅一秀、 浅川修二、沼野雄司、内堀愛子、塚原康子、 桑原朗、伊藤俊彦、宮脇英朗、福島丸公、 なかのクリニック、紺野信弘、吉川屋、 ミリオコンソート協会、最上 諭、船戸輝久、 本名善兵衛、矢部 剛、山川 彬、車田静子、 大橋洋子、佐野文一郎、白戸千昭、坂戸 勝、 吉原泰助、玉木晃二、依田真理恵、藤原正子、 中西弘則、穴戸利夫、南 聡、田中吉史



ミュージック・フロム・ジャパン

ミュージック・フロム・ジャパン(MFJ)は、1975年三浦尚之が設立。以来ニューヨーク州芸術評議会をはじめ、国際交流基金、文化庁、日米の財団、在米日系企業など多方面からの支援を得て、音楽を通しての文化交流に努めている。音楽之友社賞、外務大臣表彰、新日鉄音楽賞、中島健蔵音楽賞、国際交流基金奨励賞に加え文化庁長官表彰が授与された。ニューヨークにおいて1994年に開かれた日本音楽資料センターでは、日本の音楽や文化に関する世界中からの様々な問い合わせに対応している。